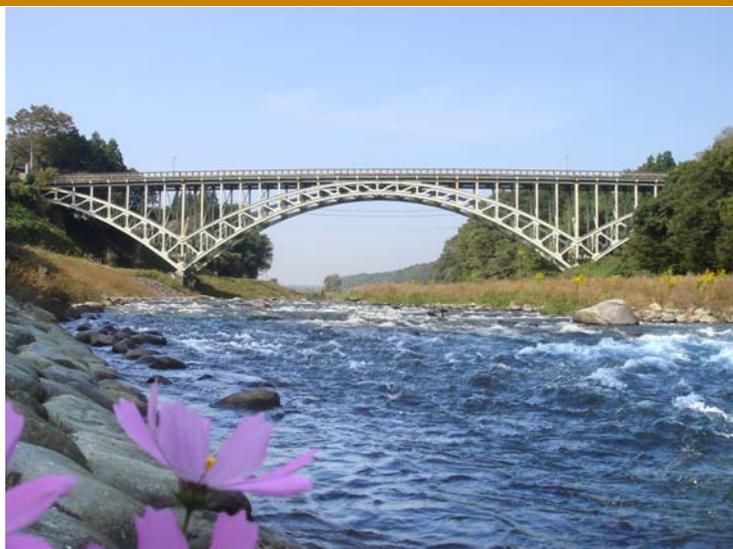


# 土木學會選奨土木遺産

## ばん すい きょう 晩 翠 橋

### 平成 14 年度認定

- 所在地：栃木県那須塩原市，那須町
- 竣工年：1932（昭和7）年
- 構造形式等：鋼ブレースドリブ・アーチ橋（バランスド・上路）  
橋長：127.87m  
3径間（中央：支間70.0m，  
アーチライズ14.0m）  
幅員：9.0m
- 管理者：栃木県

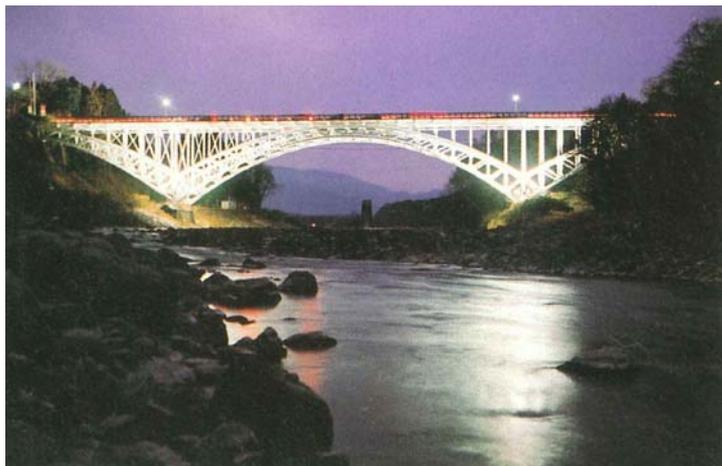


さらに、3代目が1908（明治41）年11月に、4代目が1922（大正12）年7月に架設されました。

5代目となる現在の晩翠橋は、1931（昭和6）年から翌年にかけて架設され、設計は、文化功労者にもなった富樫凱一氏が行いました。

旧橋は河床からの高さが約16mでしたが、新橋は約21mと高く、旧橋より数10m下流に設置され、1932（昭和7）年7月に竣工しました。

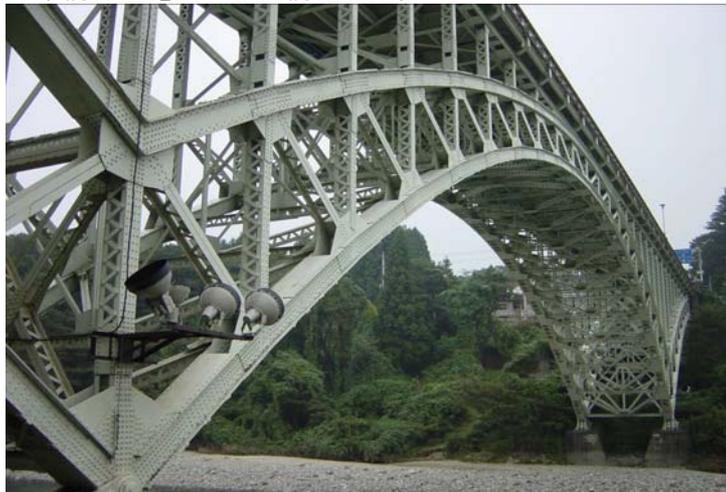
アーチリブを構成するトラス部の交点より、鉛直部材を設け床板を受けており、力強さを感じさせるものとなっています。



晩翠橋は、那須塩原市本郷町と那須町橋本町の間の那珂川に、1932（昭和7）年7月に架けられたバランスドアーチ橋です。現在のものは5代目で、初代は、1884（明治17）年、陸羽街道工事の一貫として架けられました。完成当時は「那珂川定橋」と呼ばれていましたが、「明治二十年、二十一年 栃木県統計書」には、「晩翠橋」と記載されています。

橋名の由来は不明ですが、晩翠は「冬になっても木々の緑が変わらない」という意味です。

初代の橋は、1890（明治23）年の洪水により流出したため、1894（明治27）年7月、初代晩翠橋のすぐ脇に2代目晩翠橋が架橋されました。橋台、橋脚（中央に1基）はともに石材をもって永久建築とし、長さ110m、幅7mの木橋の上路式トラス橋でした。



晩翠橋の構造は、国内では他に荒川橋（埼玉県秩父市）しかない貴重なものです。

道路上からは、この橋の希少性や、渓谷美に溶け込んだ橋の美しさは分かりませんが、河原に降り立つと、緑豊かな渓谷の木々とのコントラストが、アーチ橋の優美さと力強さを際立たせています。

晩翠橋は、関東地方と東北地方を結ぶ国道4号として、長く物流の大動脈を担ってきましたが、現在は主要地方道として地域の幹線道路の役目を担っています。

夜間にはライトアップ（期間限定）も行われており、那珂川の渓谷美に映える幻想的な空間づくりにも一役かっています。